

することもある。甲状腺機能異常は通常みられない。多発性骨髄腫ないし形質細胞の形成異常 (plasma cell dyscrasia), 糖尿病, 膠原病, 肝障害などの原疾患が存在することが多い。

5. 網状紅斑性ムチン沈着症 reticular erythematous mucinosis ; REM

中年女性の前胸部や背部に、自覚症状に乏しい網状紅斑を生じる (図 17.12), 真皮へのムチン沈着に加え, 血管周囲への単核球浸潤が強いことが特徴的である。SLE, 糖尿病, 甲状腺疾患, 内臓悪性腫瘍などに関連して生じることがある。

6. 毛包性ムチン沈着症 follicular mucinosis ★

常色～紅色の丘疹が主に顔面・頭部に集簇, 融合し, 隆起した局面となる (図 17.13)。脱毛を伴うことが多い。外毛根鞘と脂腺に浮腫とムチン沈着を認める。また, 毛包部の液状変性とリンパ球浸潤がみられる。数か月で自然消退するものと, 慢性に経過するものとがあり, 後者のなかには悪性リンパ腫を合併するものがある。

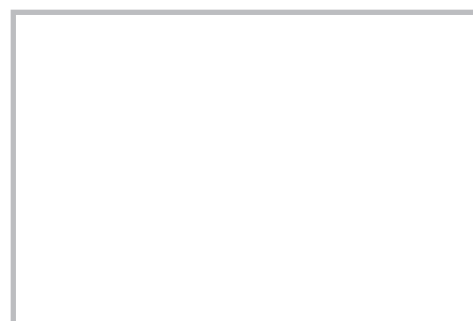


図 17.12 網状紅斑性ムチン沈着症 (reticular erythematous mucinosis)

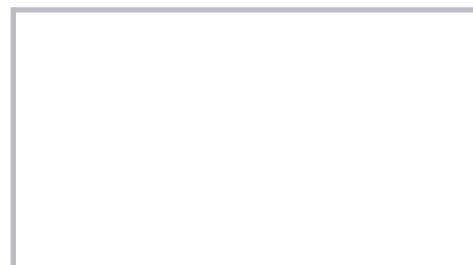


図 17.13 毛包性ムチン沈着症 (follicular mucinosis)
比較的境界明瞭な直径 3～4 cm の紅色浸潤を伴う局面。脱毛を伴っている。

C. 黄色腫 xanthoma

定義

脂質を貪食した組織球である^{ほうまつ}泡沫細胞 (foam cell) が皮膚や粘膜に集簇したもので, 肉眼的に黄色調を呈する (図 17.14, 17.16～19)。一般に, 黄色腫は全身性のリポ蛋白代謝異常 (脂質代謝異常) に伴うが, 脂質代謝異常を認めないこともある (正脂血症性黄色腫)。臨床像からいくつかの病型に分けられるが, 主なものを以下に解説する。そのほか, 結節性^{はっしん}発疹性黄色腫や手掌黄色腫などの病型もみられる。

病理所見

真皮のとくに血管周囲に, 脂肪滴を含有した泡沫細胞が集簇した組織像を呈する (図 17.15)。Touton 型^{ツートン}巨細胞を認めることもある。

治療

脂質異常症の治療が主となる。^{がんけん}眼瞼黄色腫では, 脂質異常症を伴わない症例でも脂質異常症治療薬が有効なことがある。発疹性黄色腫は脂質異常症が是正されれば数週間で消失するが,

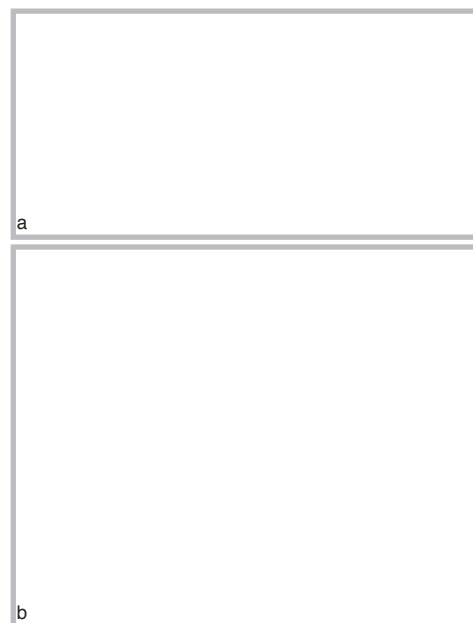


図 17.14 結節性黄色腫 (tuberous xanthoma)
a: 左母趾に生じた例。b: MP 関節および PIP 関節に生じた例。一部赤みを伴う。